

(別記様式)

令和7年度 京都府立福知山高等学校附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◎ 「個を活かし、公に生きる人間」の育成 ◎ 「グローバルに活躍する人間」の育成 これらの推進のため、 ・5K力（「感じる力」、「考える力」、「行動する力」、「向上する力」、「関わる力」） ・いつの時代のおいても生き抜くことのできる力（汎用的能力）を身に付け、自らの「みらい」を創造する力の育成に努める。 バランス感覚のある、人間としての総合力をはぐくむ教育を推進する。	（成果） 1 各学年実施の少人数授業を活用した専門性の高い授業展開を通して、広い視点に立ったきめ細かな指導を実現し、学力向上を図ることができた。また、タブレット等ICTの活用を積極的に行うことで「主体的で対話的な学び」の促進につなげることができた。 2 総合的な学習の時間「みらい楽」を中心に据え、地域理解を深めることを通じて社会の抱える課題の解決に向けて取り組むなど、探究的な学びの要素を取り入れた授業を展開することができた。企業や行政と連携することで主体的に地域や社会と関わり、考えや調査結果を発信しながら学びを深めることができた。昨年よりも幅広い立場の方に呼びかけ、探究活動の成果報告会（「F3！」等）を実施することができた。様々な意見から、着眼点や手法等を習得することができた。 3 部活動においては、高校と連携しながら活動する部活動があるとともに、部活動加入率も高かった。さらに、中学校での部活動引退後も切れ目なく高校の部活動に参加するなど、6年間を見通した部活動運営を心がけ、一定の成果を得た。生徒会活動においても、生徒が中心となり生徒会行事を運営した。 4 こまめな家庭連絡や三者面談など、日常的な家庭との連携を密にとることで、信頼関係を築くことができた。 5 学校説明会や「附属中だより」など、いきいきとした生徒の様子を小学校や地域に発信することができた。 6 避難訓練を複数回実施するなど、生徒及び教職員が共通認識をもって 安心・安全な学校づくりに努めることができた。 （課題） 1 中高一体となった校内組織を確立するため、6年間を見通しながら、組織としての動きを高め、効率的に教育の質を高めていけるようにする。 2 中高一貫教育校ならではのコラボの内容を充実させつつ、在校生への意義づけ・意味づけをする内部発信にも努める。 3 学校全体の教育力向上に向けOJTをさらに推進し、教職員の資質・能力の向上が図れるようにする。	1 中高一貫教育の推進 (1) 中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。 (2) 中高6年間を見据えて資質・能力を育成するため、中高の接続を意識した中学3年間の指導の充実を図る。 (3) 6年間を見通しながら生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立する。 2 一人一人の学力の向上 (1) 少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。 (3) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。 (4) 総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通して生徒自らが課題を設定し、探究の楽しさを実感させ、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養う。 3 「福高コラボ」の推進 各種行事や部活動、生徒会活動等での協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではのコラボを実施する。 4 健やかな身体と豊かな人間性の育成 学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、心身を鍛えるとともに、仲間づくりの大切さに気づかせ、人権意識や規範意識、思いやりの心を育む。 5 学校組織の改善と見直し 教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。 6 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり 全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、学校全体を見通した危険個所の早期発見や日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。 7 家庭・地域・関係機関との連携の強化 (1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。 (2) 地域学習や地域連携活動等を通して、積極的に地域や外部機関と関わろうとする姿勢と行動力を育む。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具 体 的 方 策	評価			成果と課題
組織・運営	【 中高の接続を意識した指導の充実 】 6年間を見通しながら、I C Tや少人数授業を効果的に行い、基礎的な学力の定着の徹底及び探究的な視点からの学びを充実させる。	中高6年間で育む資質・能力を意識した指導の充実を図ることを通じて、生徒の発達段階に応じた、深い学びを実現していく。				
	【 学校全体の教育力向上の視点からの組織改善 】 学校全体の教育力向上のため、中高の在り方を含めた校内体制の確立及び業務の効率化を図っていく。	業務の平準化を進めるとともに、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図っていきけるようにする。				
	【 効果的な広報活動の充実 】 「附属中だより」や学校説明会等を通じて、本校の魅力を効果的に発信することで生徒募集につなげていく。	本校に対する理解や教育活動の充実を図ることで、広報や生徒募集につなげていく。				
教務部	学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を進め、主体的な学習態度の育成に努める。	主体的・対話的で深い学びを実現するため、各学年・教科で行われている指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。				
	高校と連携して、学習過程の見直しにつながるよう研修を進める。	学習指導の改善が生徒の学習過程の見直しに繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、学校全体で教育力向上を目指す。				
生徒指導部	身だしなみを整え、自分から率先して挨拶し、社会性を育む。	身だしなみ、挨拶について意識を高められるように、日頃から積極的に声掛けを行う。				
	交通安全に関わるルールの遵守や通学マナーの向上を意識させ、交通事故防止につとめる。	通学マナーの向上を呼びかけ、交通事故の防止や他者をおもいやる行動などの啓発運動をする。				

	「行動する力」「関わる力」を始め、5つの力の育成のため、生徒会執行部を中心とする委員会活動の活性化を図り、主体性と協調性を育む。	生徒会執行部を中心に生徒会活動において学校生活の充実に向けた取組を行う。			
進路指導部	進路意識を向上させ、夢や希望を持って高校進学に臨むように指導する。	高校進学後の展望と、大学進学、そして大学卒業後の進路の見通しを持たせる。			
		高等学校における進路指導の実際を知り、早期から大学進学や大学進学後の就職を意識したキャリア教育を推進する。			
	職場体験学習などを計画し、職業観を身に付けさせるとともに、将来地域社会に貢献する人材となるべき資質・能力・態度を身に付けさせる。	職場体験学習を通して、自分自身の職業観を考えさせる。			
保健部	生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。	生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業や部活動、登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康・安全に関する啓発を行う。 保健活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。 健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。			
	健康教育の充実を図り、自らの健康管理に対する意識を高める。	学校保健活動や学校環境に関心を持ち、感染症予防も含め、換気の励行に努める。 保健委員による保健・衛生活動等を企画して行い、生徒の健康意識を高める。			

人権教育部	様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	学年や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。				
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。				
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や小学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう、広報誌(「附属中だより」、附属中案内)やホームページ等による情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に、本校の取組等をこれまで以上に知ってもらよう、あらゆる手段を使い努める。	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや「附属中だより」等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。				
		ホームページや広報誌(「附属中だより」、附属中案内)、小学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、志願者の増加を目指す。				
みらい探究部	「みらい楽」において身につけさせたい力を明確にし、それらの力がどれくらい身についたのか確認し、今後改善していく部分を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶ力を高める。	「みらい楽」において、課題研究に必要なスキル、研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等を工夫・改善し、より系統的で深い学びとするための学習計画を作成する。				
		「みらい楽」における探究活動を通して5K力(感じる力・考える力・行動する力・向上する力・関わる力)及び課題対応力などの汎用的能力を高める。				
	「ユリイカ・デー」を通して、学校における授業の深化・発展や基礎補充、地域における多様な学習や体験等ができる豊かな学びの環境を提供する。	生徒のさらなる成長を支え、興味を持って主体的に学習に向かう力を向上させるために、積極的に土曜講座を活用する。				
図書視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」、「豊かな表現力」、「感性を磨く力」を育成する。	豊かな読書活動を推進するために、図書委員会が図書館と学級の架け橋となるよう支援する。 学年、分掌、教科と連携し、図書館活用を増やすとともに、活用内容の充実を図る。				

	P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。P T A活動の様子が「わからない」と感じている保護者が多い実態をふまえ、「さくら連絡網」やInstagramを活用し、情報発信を積極的に行う。			
第1学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。			
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、フィールドワークや書籍、インターネットを通して、グローバルな視点で課題を捉え、グループや個人での探究学習を実施する。			
第2学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。			
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な考え方に触れながら「人はなぜ働くのか」という問いに対する納得解を見出す。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 また、職場体験も実施する。			
第3学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。			
	総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、様々な考え方に触れながら、地域社会の現状や課題を分析し、解決策を考え実行する資質・能力を育む。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。			
事務部	安心・安全な学校生活が送れるよう、施設・設備の維持管理を徹底する。	危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。			
	学校経営方針の推進に、各分掌や教科等と連携し、効果的な予算執行	各分掌や教科等と連携を密にし、効果的な予算執行を行う。本校の教育推進に効果的な計画の立			

	を図る。	案、執行に努める。			
	丁寧かつ的確で迅速な窓口業務及び電話対応を行う。	保護者・府民との窓口となる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。			
国語科	主体的・対話的で深い学びからの授業改善や、ＩＣＴの活用などにより、生徒が意欲的に思考し、表現しようと思える指導の工夫改善に努める。	既習の事項や考え方を生かした表現活動を充実させ、思考への意欲を高めるような言語活動を設定する。			
	生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力等の定着を図る。	単元の中で重点的に扱う指導事項を検討し、知識・技能の定着を図る。小テストなどを活用して、家庭学習の方法を改善させる。			
社会科	身近な問題から国際的な分野に関することまで、社会的事象に関して関心・意欲を高めたうえで、生徒が「見方・考え方」を働かせる機会を適切に設定し、思考力・判断力・表現力を高める。また高校との連携を図り、次のステップにつながるように知識・技能を習得させる。	授業の中でＩＣＴを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、学力向上につなげていく。習得した知識技能が生きて働く力となるように、活用場面を適切に設定していく。			
		様々な課題（グローバルな課題から地域課題まで）について主体的・協働的に発見・探究するための学習機会を設ける。			
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を育成し、社会の変化に対応できる学力を養成する。	学ぶことやわかることが楽しいと感じられるように、主体的に考えられる機会を大切にした授業を展開する。			
	学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	デジタル教科書を使った授業をはじめとし、ＩＣＴの活用についての交流を図り、効果的な使い方を実践しながら交流を図る。			
理科	質の高い学力の定着を図るための集団づくり・環境づくりに努める。	生徒相互の討議や教え合い学習など、生徒自らが学ぶ授業づくりに努める。そのため、知識・理解だけの授業ではなく、深い理解や表現力を高める学習を授業に取り入れる。			
	中高６年間を見通しながら、生徒の興味、関心、意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。	教科書の内容にとどまることなく高校の教材や最新科学分野に触れながら、自然事物についての興味・関心を高める。			
音楽科	歌唱・器楽の演奏能力の向上を図	歌唱・器楽の授業において、演奏技術や表現力			

	るとともに、創作・鑑賞の知識やその基礎力の充実を目指す。	を身につけさせ、音楽の幅広い活動を通して音楽を愛好する心情を育てる。				
		創作に意欲を持って取り組み、作品を作ったり演奏したりできるように、楽曲の背景を理解し鑑賞する。				
美術科	作品制作や鑑賞を通して、思考力、判断力、表現力を育成するため、授業改善を推進する。	鑑賞・表現の授業において、美術の創造活動の喜びを味わい、見方や感じ方を深め、美術を愛好する心情を育てる。				
	美術作品を鑑賞する喜びを味わわせ、「感じ取る力」や「思考力」、「言葉による表現力」を育成する。	鑑賞活動から、「見方、感じ方を深める鑑賞」に興味関心を持たせる。				
保健体育科	<健康・安全教育の推進> 体育及び体育的行事の事故防止を図る。	体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全に対する意識の向上を図る。				
	<ICTの有効的な活用> 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度（粘り強く取り組む力・学習を調整する力）の育成につなげる。	実技の動画撮影を通して、課題解決のための取り組み方を考える機会を設け、学習内容の定着と技能の向上を図る。				
技術・家庭科	生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質能力を育む。（生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けさせる。）	実技の中で、課題解決について考える時間を取り入れることで、学習内容の定着と技能の向上を図る。				
英語科	中高6年間を見通して、英語4技能5領域を総合的に育成する学習指導を行い、知識・技能の定着を計る。	定期的に小テストを実施し、学習内容の理解を確かめる機会を設ける。 ペアやグループでの活動や議論を通して互いの気づきを交流させる。				
	外国語の知識・技能を活用し、発信する力を養う。	既習の言語材料を目的や場面状況に応じて活用できるよう、単元のまとまりごとにパフォーマンステストを実施する。				

道徳	道徳の授業を中心に、自分自身を見つめ、人間としての生き方や周りの仲間や社会との関わりについて考え、表現する経験を積ませる。	自分自身や自らの属する集団について考え、表現する経験を重ねることで、より良い環境を自ら作っていけるようにする。			
	それぞれの内容項目について、生徒が考え、議論する道徳の授業を行い、道徳的価値に対する理解を深める。	1年間の指導と評価が円滑に行われるよう、担任間や道徳担当が連携する。			

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	
-----------------------	--